

国際婦人デー3・6東京集会に寄せられたメッセージ

大韓民国からのメッセージ

万国の労働者、団結せよ！

万国の女性・男性労働者団結せよ！

労働社会科学研究所 運営委員会

一一三周年目の国際婦人デーを迎え、日本で三・六東京集会を組織している同志のみなさん、こんにちは！ 韓国の労働社会科学研究所運営委員会です。出発時から国際連帯の精神ではじめられ、国際連帯の精神で受け継がれてきた国際婦人デーに、日本の困難な条件のもとで活動される同志のみなさんに深い連帯と尊敬の挨拶を送ります。

韓国はCOVID-19の防疫政策で、昨年につづいて今年も、三・八女性大会、労働者大会などの大規模集会が計画できないでいます。民主労総もオンラインで「災難を越えて連帯へ」というスローガンの下、各界各層で働く女性たちをイラストで表現して共有し、“コロナの時期に変わったわたしの経験”の公募活動と“ジェンダー平等にむけた労働組合の約束認証ショット”、三月八日に女性労働者にパンとバラを贈る運動をすすめているだけです。

資本主義・韓国の状況も日本の状況も、すなわち（この連帯メッセージの依頼状に記されていた）「弱小企業は淘汰され、労働者を取り巻く状況は大変厳しくなっています。真っ先に首を切られるのは、非正規労働者です。とくに女性労働者は貧困が深刻になり自殺者も増えています」という日本の状況とまったく違いがありません。たとえば、ソウルでは韓国の代表的な独占資本のひとつLGグループの巨大な社屋であるLG-ツイン・タワーの清掃労働者たちが、そして釜山では新羅大学の清掃労働者たちが集団解雇され、闘いが起きています。日本や他の資本主義諸国と同様に、韓国も、労働者たち、とりわけもっとも力の弱い非正規職の女性労働者たちにもっとも苛酷な社会です。

このような状況のもと、わたしたち労働社会科学研究所は、闘う労働者たちと実践的に連帯しながらも、当面する闘争に埋没することなく、労働運動の理念的・政治的発展のために労働者階級が究極的にめざすべき目標を見失わないように努力しています。天の半分、世界の半分以上を占める女性の問題は、男性と女性の対立の問題ではなく階級社会の問題であり、とりわけ資本主義社会では、女性が資本の飽くなき利潤追求の犠牲者として、低賃金の非正規職に置かれるようになった問題であることに注目します。結局、女性解放の問題は、搾取のない社会になった時はじめて完全に解決されます。だからこそ、女・男労働者の団結で資本主義搾取の世の中に決着をつけるために力を尽くさなければならないと強調しています。国際婦人デーは、女性が男性と対立して闘う日ではなく、女・男労働者が団結して資本家と闘う日だと強調しているのです。

日本の菅政権、米国のバイデン政権へと独占資本権力の執行者の名が変わっても、依然として資本主義の危機を労働者・人民に転嫁して、自国資本の危機を帝国主義侵略政策で、戦争の危機を煽る挑発で解決しようとする本質は変わらず、資本主義の矛盾が激しくなることによって、そのような策動はよりいっそう強力になっています。反戦・平和・女性の権利拡大の旗じるしで国際婦人デーを闘ってきた先輩労働者たちの意思を受け継いで、韓国でも日本でもそして全世界的に闘争に奮い立たなければなりません。

【翻訳・土松克典】

（『思想運動』1063号 2021年4月1日号）